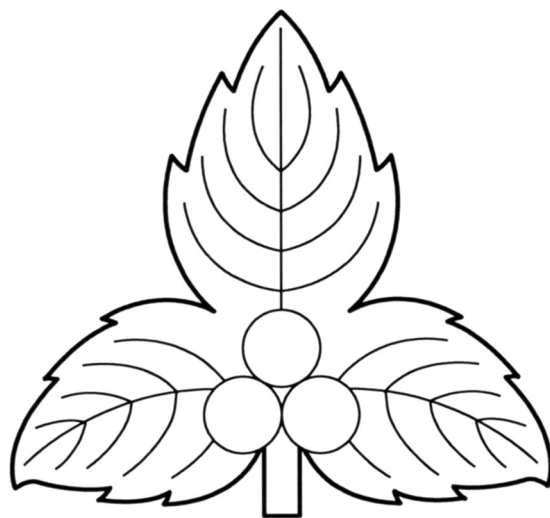


2023年度北海道大谷学園連合会 高等学校相互評価報告書

対象校 帯广大谷高等学校



評価校：稚内大谷高等学校

(実施日：2023年11月21日)

2024年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会評価委員会

主 査	中西 猛雄（北海道教区大谷学園委員会委員）
主査代理	土山 泰弘（北海道教区大谷学園委員会委員）
委 員	金石 潤導（所長推薦・南第3組開正寺住職）
委 員	小野 茂（帯広大谷高等学校 校長）
委 員	佐藤 真司（帯広大谷高等学校 教頭）
委 員	木村 泰優（稚内大谷高等学校 教頭）
委 員	澤田 満（北海道大谷室蘭高等学校 教頭）
委 員	庭田 尋生（北海道大谷室蘭高等学校 事務長）

帯広大谷高等学校の概要

設 置 者	学校法人 帯広大谷学園
理事長名	桂 井 智 善
校 長 名	小 野 茂
開設年月日	1 9 2 5（大正14）年4月
所 在 地	帯広市西19条南4丁目35番1号
設置学科	普通科（文理コース・普通コース）
入学定員	260名（総定員780名）
教職員数	総数 72名 （常勤 56名 非常勤 16名）

調査結果

I 建学の精神・教育理念・教育目標・学校目標

宗教行事を通して、教職員と生徒が建学の精神に触れる機会を数多く設けられている。訪問時に御正忌法話があり、参列させていただいた。高校生目線のメッセージが込められている温かな法話であり、大変勉強になった。

II 分掌

教務では、各学年と連携を図り生徒の学力向上に向けた取り組みを行っている。定期考査後の細かなアフターケアも充実しており、教職員の意識の高さが伺える。こうした支えもあり、転・退学者数が僅かにとどまっているものと思われる。

生徒指導では、細かなサインも見逃すことのないようアンテナを高く張り指導を行っている。中でも「気付きを持たせる」、「マナー・モラルの重要性」は人として生きる上で最も大切な部分であり共感できる。

進路指導では、進学は校内ガイダンスやオープンキャンパス・相談会への参加や案内等を積極的に促す一方、就職はハローワークやジョブカフェとの連携を通しスムーズな情報提供に努めている。早期の進路志望先確定に繋げることで、その後の準備にも余裕を持ってあたっている様子が伺える。

入試では、入試委員会と職員会議の相互が連携し、十分な前年度入試の分析を行う中で翌年度入試の方針を決定している。現在は十勝管内中学校に年間 3 回の訪問を行っているが、今後の生徒減に伴い管外中学校への訪問も検討されているとのことで、積極的な姿勢が感じられる。

III・IV 管理運営・財務

十勝唯一の総合学園である学校法人ならではの強みを生かし、幼稚園・短大との教育連携を図りながら運営している。また、物事に関しては現場の声を出来る限り尊重させ、民主的な決定を行うことも心がけている。

財務では校舎建設費用等の関係もあり支出超過ということである。定員超過による補助金の削減等の問題と併せ、今後は経費の抑制等に苦慮する場面もあると思われるが、中長期に渡り健全な学校運営を行っていかれることを願う。

以上